

令和4年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

令和4年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 令和4年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも予算を上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、調停条項の想定推移を上回る見込みです。
- 平成24年度末に債務超過が解消された純資産額についても、調停条項の想定推移を引き続き上回る見込みです。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、調停条項を上回る見込みです。

3 今後の展望

- 売上高、各利益とも予算を上回る見込みとなっており、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

令和4年度

通期業績予想

1. 令和4年度通期業績予想

(単位:千円・%)

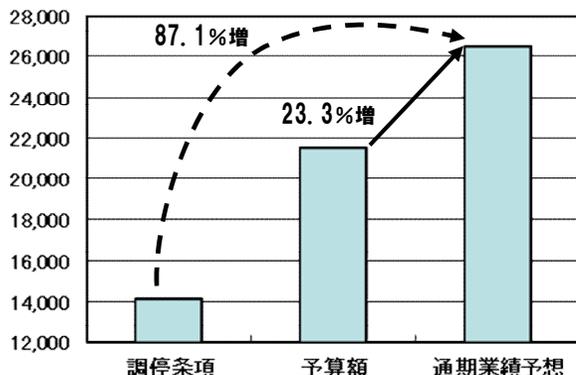
	令和4年度			令和4年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,074	126,000	128,396	22,322	21.0	2,396	1.9
営業利益	14,164	21,500	26,500	12,336	87.1	5,000	23.3
経常利益	12,585	18,985	24,027	11,442	90.9	5,042	26.6
当期純利益 (※)	6,167	49,423	54,465	48,298	783.2	5,042	10.2
期末資金残高	83,555	136,454	142,096	58,541	70.1	5,642	4.1
純資産額	59,098	196,243	201,285	142,187	240.5	5,042	2.6

(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

2. 令和4年度営業利益（本業利益）の比較

(千円)



調停条項を上回り、予算を上回る予想です。

要因

売上高の増加により、営業利益が予算額を上回る見込みです。

所有床の賃貸収入、小さなお店応援チケットの販売手数料などの増収によるものです。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	令和3年度 (令和3年9月30日現在)		令和4年度 (令和4年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	569,058	100.0	584,291	100.0	15,233
流動資産	137,697	24.2	153,672	26.3	15,975
固定資産	431,361	75.8	430,619	73.7	▲742
有形固定資産	416,139	96.5	414,999	96.4	▲1,140
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	14,926	3.4	15,324	3.5	398
負債合計	433,873	76.2	420,224	71.9	▲13,649
流動負債	27,281	6.3	25,247	6.0	▲2,034
固定負債	406,592	93.7	394,977	94.0	▲11,615
純資産	135,185	23.8	164,067	28.1	28,882

純資産(繰延税金資産除く)	129,114	—	157,598	—	28,484
---------------	---------	---	---------	---	--------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	令和3年度 (予算)		令和3年度 (決算)		令和4年度 (予算)		令和4年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	R3決算・ R4業績予 想対比	R4予算・ R4業績予 想対比
売上高	126,500	—	126,841	—	126,000	—	128,396	—	1.2	1.9
受託料収入	81,309	—	81,573	—	79,504	—	80,481	—	▲1.3	1.2
所有床賃貸収入	7,378	—	7,878	—	7,469	—	8,446	—	7.2	13.1
土地賃貸収入	25,008	—	25,008	—	25,008	—	25,008	—	0	0
受取手数料収入	2,355	—	3,667	—	2,519	—	2,979	—	▲18.8	18.3
文化・交流センター売上	10,450	—	8,715	—	11,500	—	11,482	—	31.7	▲0.2
営業利益	20,500	16.2	27,696	21.8	21,500	17.1	26,500	20.6	▲4.3	23.3
経常利益	17,810	14.1	28,353	22.4	18,985	15.1	24,027	18.7	▲15.3	26.6

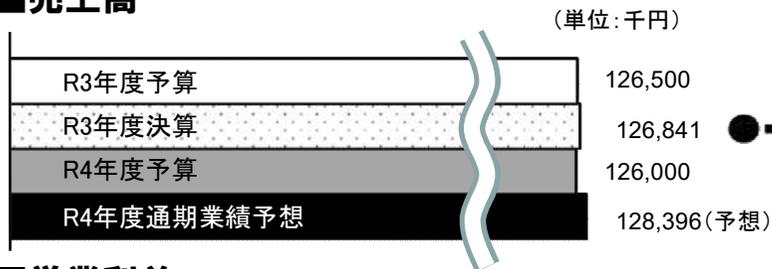
当期純利益 (法人税等調整額除く)	17,390	13.7	27,715	21.9	49,423	39.2	54,465	42.4	96.5	10.2
----------------------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	------	------	------

5. 売上高・利益の推移

・令和4年度は、予算時に比べ売上高は増加し、営業利益、経常利益、当期純利益とも上回る予定です。

R3決算・R4予算と通期業績予想の比較・主な要因

■売上高



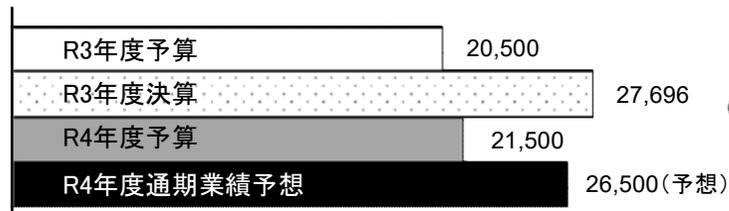
決算比1.2%増

・所有床の賃料収入等の増加による

予算比1.9%増

・所有床の賃貸収入、小さなお店応援チケットの販売手数料収入増加などによる

■営業利益



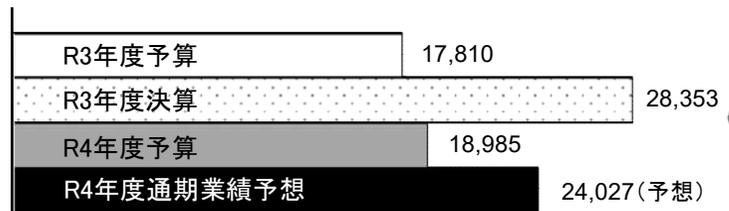
決算比4.3%減

・指定管理事業や受託事業の時短営業等が終了し、費用が増加したことによる

予算比23.3%増

・売上高の増加と販売管理費の抑制による

■経常利益



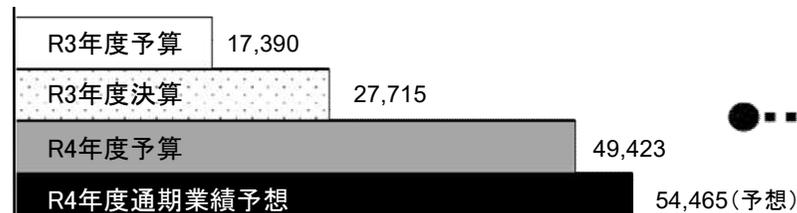
決算比15.3%減

・営業利益の減益による

予算比26.6%増

・営業利益の増益による

■当期純利益



決算比96.5%増

・固定資産売却による繰越欠損控除、法人税減少による

予算比10.2%増

・経常利益の増益による

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

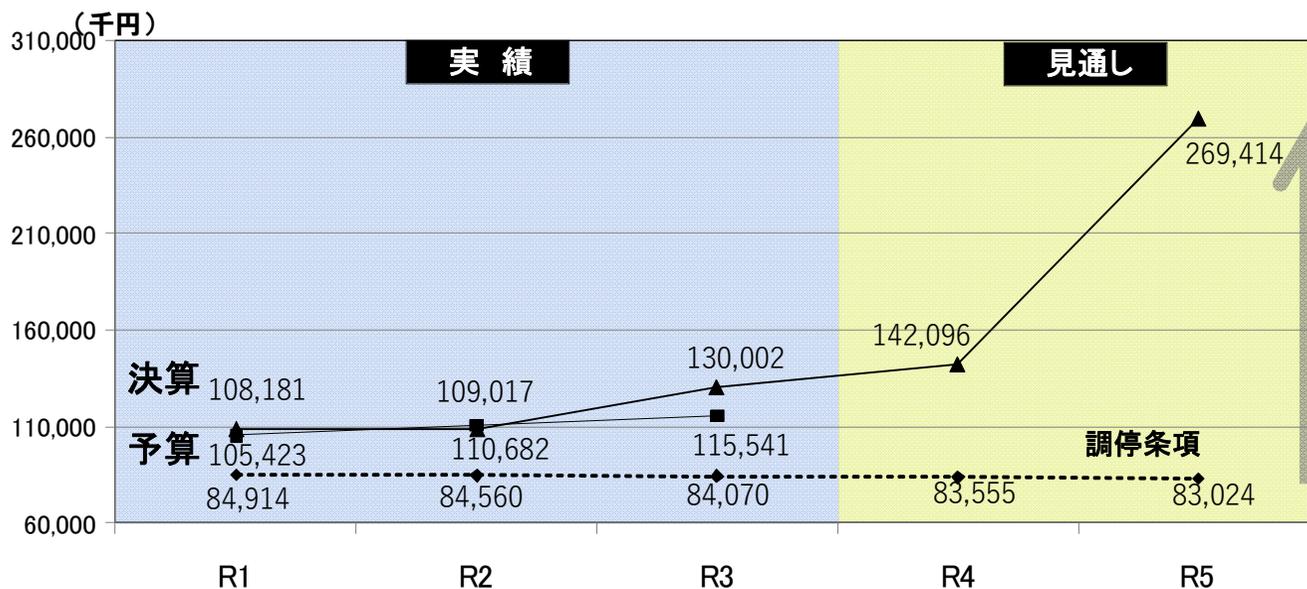
.....➡ **資金計画で判断することが適切**

参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績				令和4年度	令和5年度
	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
調停条項	84,914	84,560	84,070	調停条項	83,555	83,024
予算	105,423	110,682	115,641	今後の見通し R4年度通期業績予想による (予算136,454)	142,096	269,414
決算	108,181	109,017	130,002			



12期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

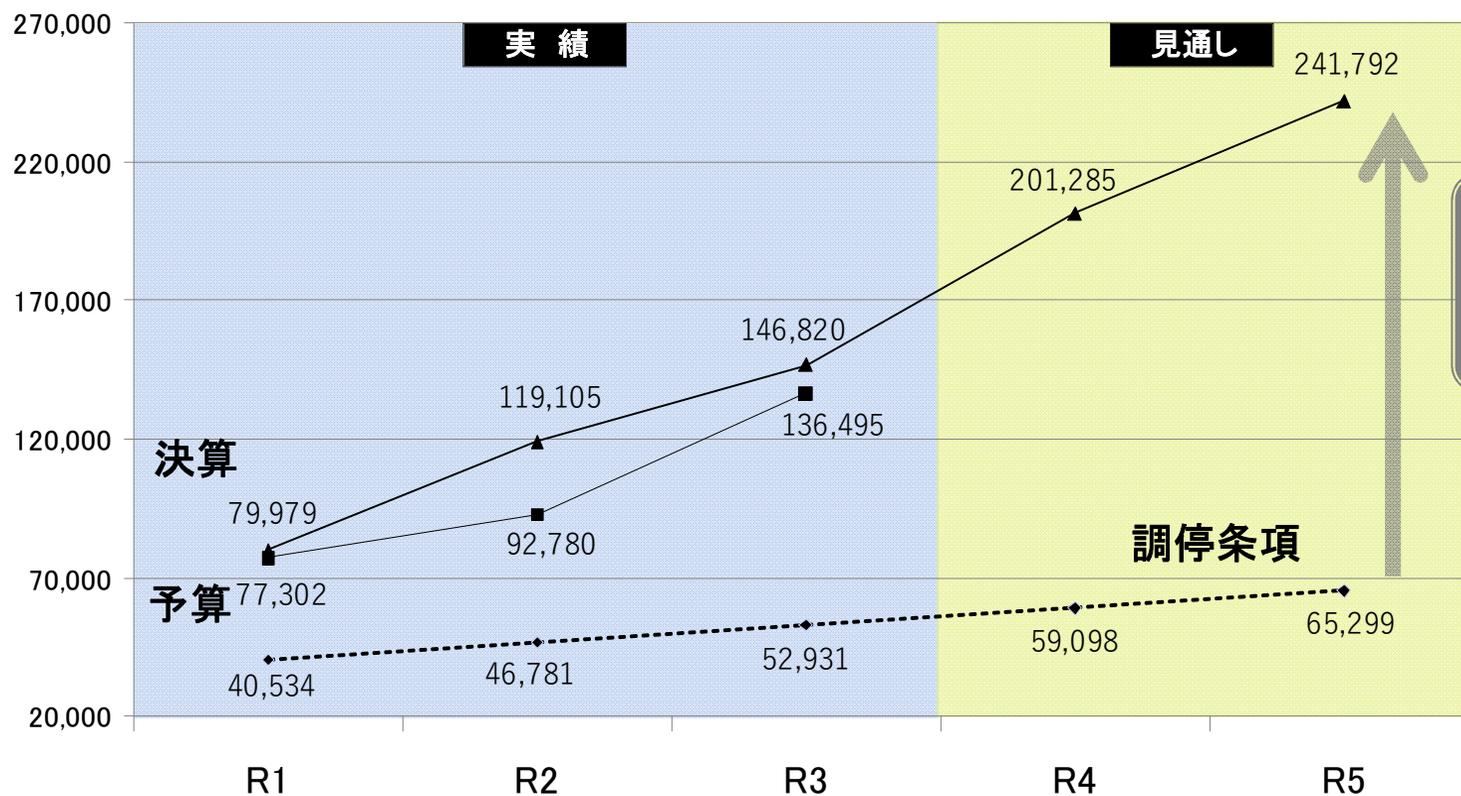
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				令和4年度	令和5年度
	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
調停条項	40,534	46,781	52,931	調停条項	59,098	65,299
予算	77,302	92,780	136,495	今後の見通し R2通期業績予想による	201,285 (予算196,243)	241,792
決算	79,979	119,105	146,820			

(各数値は繰延税金資産を除いています)

(千円)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

参考3：事業別売上高の推移

